

## 令和5年度農林水産技術会議結果概要

### 農業技術センター

|      |   |      |          |
|------|---|------|----------|
| 開催日  | 令和5年12月7日   | 開催場所 | 農業技術センター |
| 部会名  | 研究課題設定部会  |      |          |
| 評価課題 | 脱炭素・低コスト施設栽培技術の開発と環境影響評価  |      |          |
| 評価委員 | 農業・食品産業技術総合研究機構 研究等管理役<br>いちご園 園主   |      |          |
| 評価概要 | <p>○生産現場に渡していく技術である。指導機関も含めて生産現場との意見交換を通じて、技術のすり合わせをして研究を進めてほしい。</p> <p>○研究は評価がついて回る。最初に目標の基準を明確にすると、目標に対する達成度で評価でき、目標からずれないように取り組むことができる。</p> <p>○生産者が多く販売できるとともに、消費者に喜ばれるような情報発信をできる仕組みづくりに期待する。</p> <p>○生物多様性の関係では、有機栽培の付加価値販売が可能となった事例もある。先行事例も参考に進めてほしい。</p> <p>○省エネルギーの技術が廃れることなく、長く継続する取組として、現場に還元できる研究となることを期待する。</p> |      |          |

|      |  |      |          |
|------|--|------|----------|
| 開催日  | 令和5年11月20日   | 開催場所 | 農業技術センター |
| 部会名  | 研究成果評価部会   |      |          |
| 評価課題 | AIを活用した土壌病害診断技術の開発   |      |          |
| 評価委員 | 千葉大学大学院 教授<br>さがみ農業協同組合組織経済部指導販売課 係長   |      |          |
| 評価概要 | <p>○ヘンディムでアプリとマニュアルの2つの開発がされた。費用のハードルはあるが、精度が高く、手軽に使えるのであればアプリも十分にツールとして使える。特に若い生産者の関心があり、自分で判断できることに魅力を感じると思う。県のマニュアルとともに、プラスアルファで活用していきたい。</p> <p>○当初の目的である2つの目標は達成している。マニュアルの方が精度は高いので、AIアプリに情報を追加するなどして、それぞれ独自ではなく質的向上を図る余地があるのであれば高めてほしい。</p> <p>○土壌ごとに特性が異なることに、生産者は関心があり、必要な情報で今後取り組むべき課題であると感じた。プロジェクトの目的は十分に達成されていると思う。</p> |      |          |